



TOYOTA BOSHOKU

東証1部 証券コード 3116

2018年度（2019年3月期）

中間決算説明会

開催日：2018年11月14日

場 所：ステーションコンファレンス東京

決算状況

持続可能な成長を目指して

1. 決算の概況

2. 上期決算状況

3. 通期業績予想

1-1) 決算の概況

■ 18年度上期実績

1. 主力製品のシート台数は減少するものの、車種構成の変化や新製品切替による商品力向上により増収
2. 増収効果はあるものの、南米での為替影響、将来の成長に向けた投資、新製品開発や生産準備費用などの諸経費の増加により減益

■ 通期予想

3. 原材料価格の高騰や南米での為替変動等の下振れリスクもあるが、売上高・営業利益ともに前回公表値を据え置き

1. 決算の概況

2. 上期決算状況

3. 通期業績予想

2-1) 2018年度 上期決算状況

【連結決算概要】

(億円)

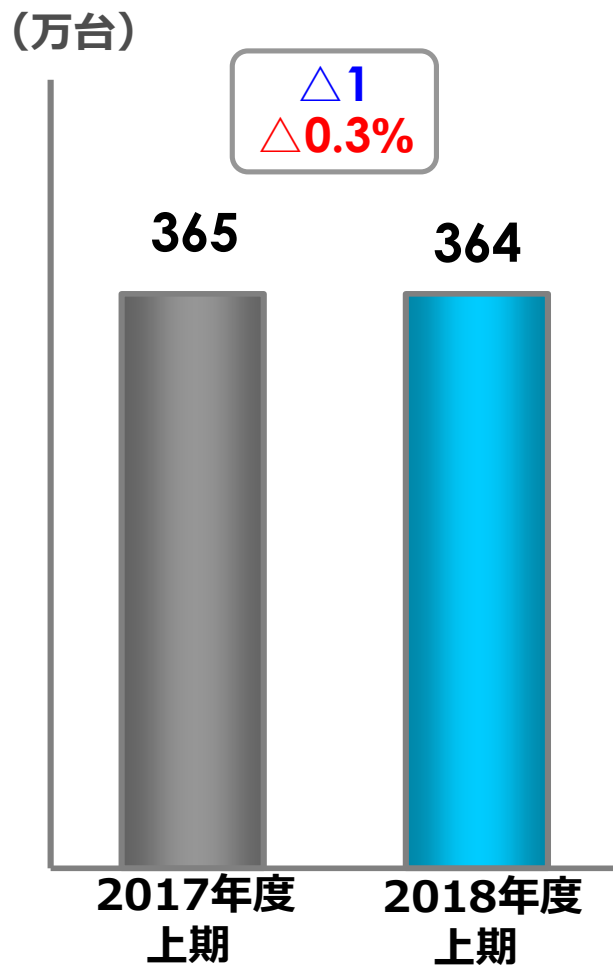
	17年度上期実績		18年度上期実績		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	6,723	100%	6,862	100%	139	2.1%
営業利益	318	4.7%	278	4.1%	△40	△12.8%
経常利益	331	4.9%	287	4.2%	△43	△13.2%
当期純利益*	191	2.8%	122	1.8%	△68	△35.8%
1株当たり当期純利益	103円03銭		66円12銭			
1株当たり配当金	25円00銭		28円00銭			
為替レート	USドル	111円	110円	1円 円高		
	ユーロ	126円	130円	4円 円安		

* 親会社株主に帰属する当期純利益

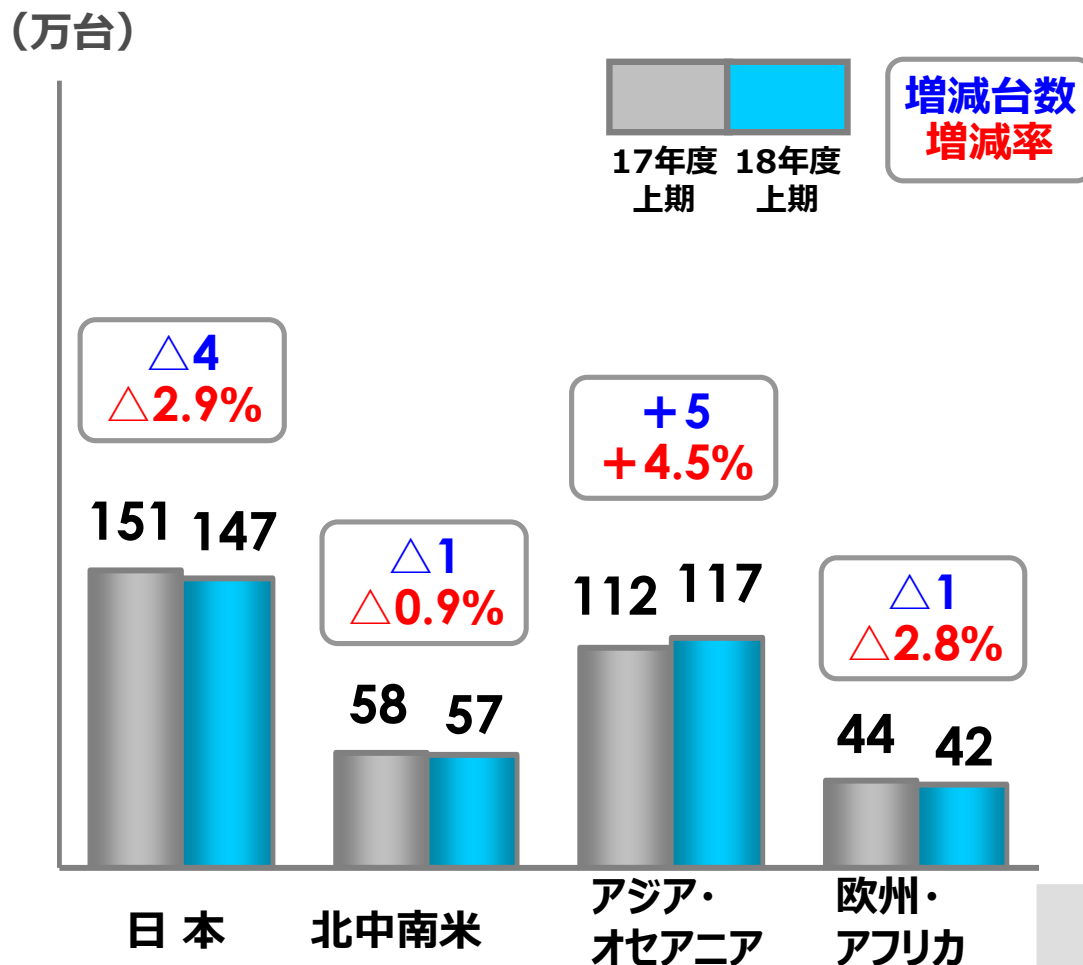
2-2) 2018年度 上期決算状況 地域別生産台数

シート生産台数

連結全体



セグメント別

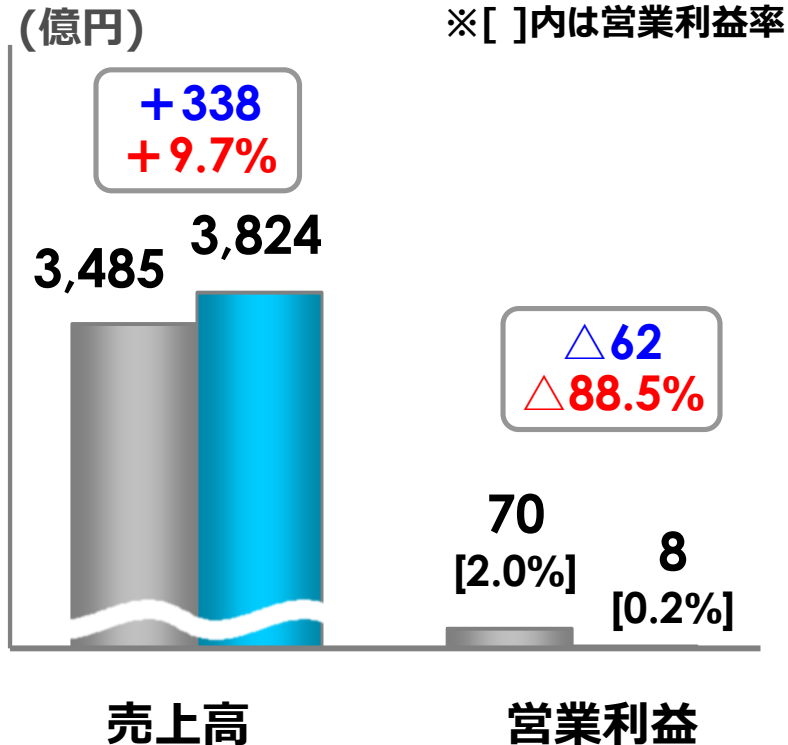


2-3) 2018年度 上期決算状況 地域別売上高・営業利益

日本

減益要因 △62億円

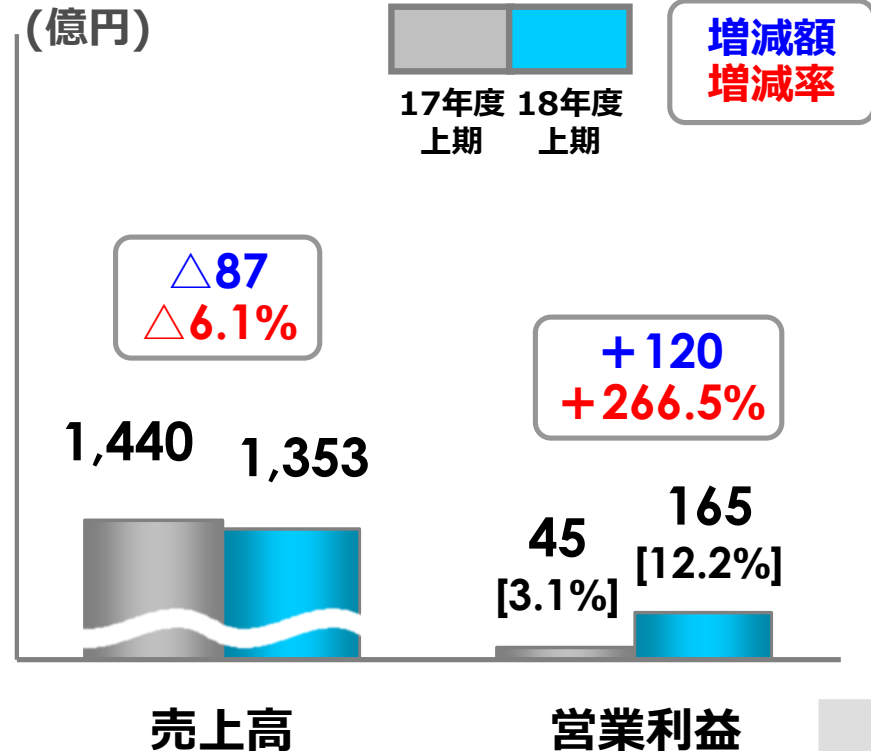
- ・MPV増産など車種構成変化により増収
- ・労務費や諸経費の増加に加え、
移転価格税制調整金の影響により減益



北中南米

増益要因 +120億円

- ・減産、南米での為替影響により減収
- ・新製品の生産準備費用の増加はあるものの、
移転価格税制調整金の影響により増益

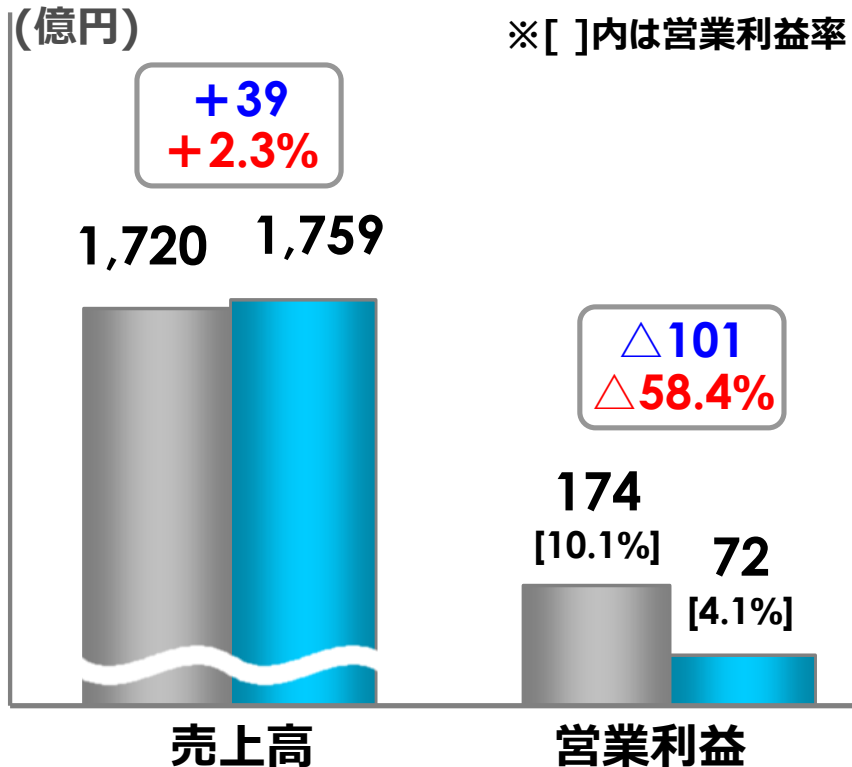


2-4) 2018年度 上期決算状況 地域別売上高・営業利益

アジア・オセアニア

減益要因 △101億円

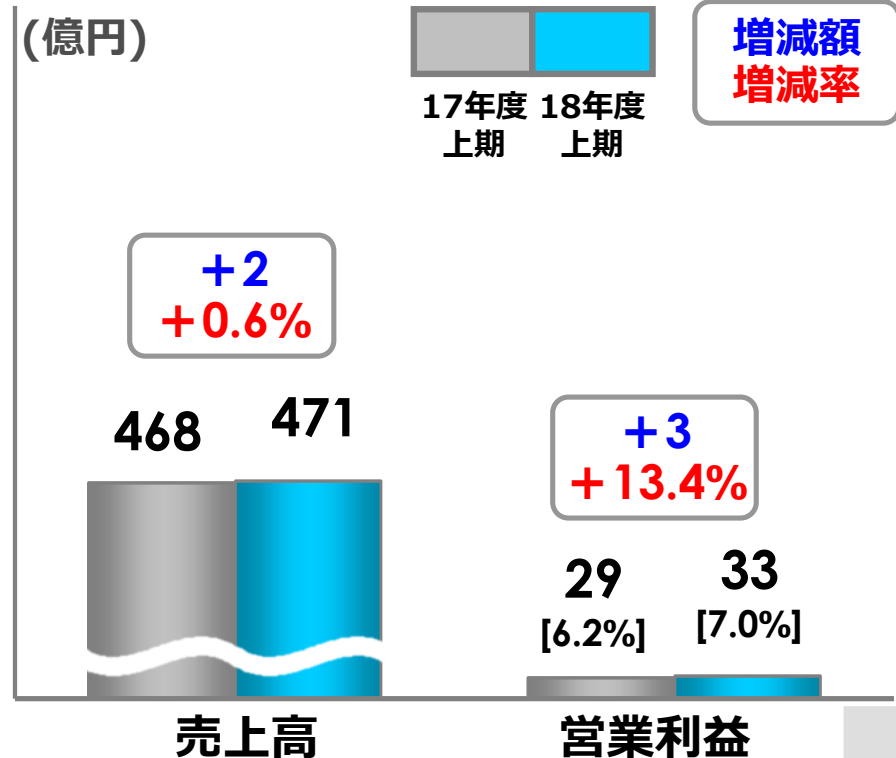
- ・中国での増産、為替の影響により増収
- ・新製品投入による増益効果はあるが、移転価格税制調整金の影響により減益



欧州・アフリカ

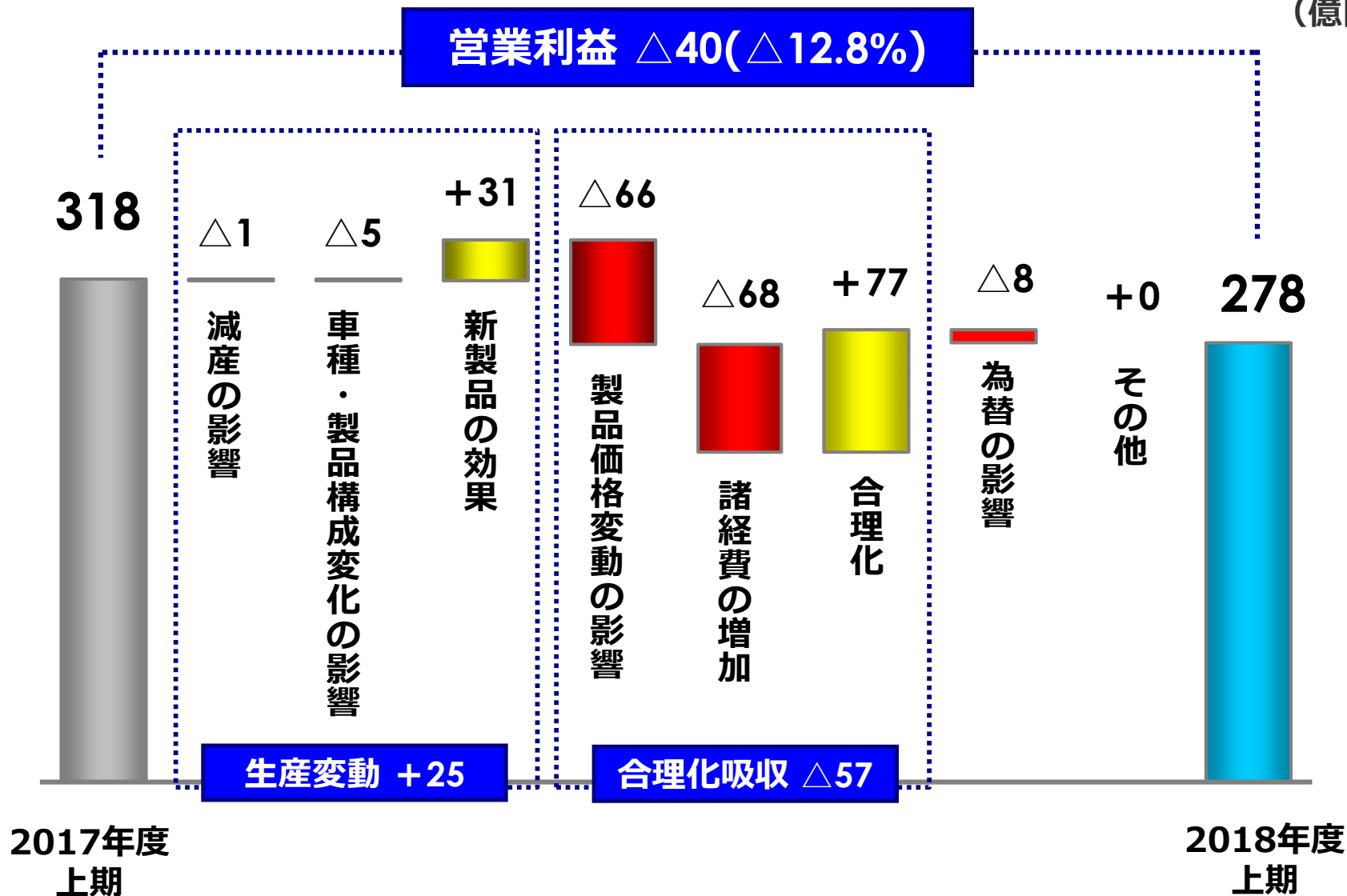
増益要因 +3億円

- ・台数の減少はあるものの、為替影響により増収
- ・車種構成変化の影響により増益



2-5) 2018年度 上期決算状況 営業利益増減要因

(億円)



1. 決算の概況

2. 上期決算状況

3. 通期業績予想

3-1) 2018年度 通期業績予想

【連結決算 通期業績予想】

(億円)

	18年度 通期予想(7月31日)		18年度 通期予想(最新)		17年度 通期実績		増減 (18最新-17実績)	
売上高	14,000	100%	14,000	100%	13,995	100%	4	0.0%
営業利益	620	4.4%	620	4.4%	711	5.1%	△91	△12.9%
経常利益	640	4.6%	630	4.5%	728	5.2%	△98	△13.6%
当期純利益*	350	2.5%	340	2.4%	427	3.1%	△87	△20.5%
1株当たり当期純利益	188円47銭		183円08銭		230円27銭			
1株当たり配当金	56円00銭		56円00銭		54円00銭			
為替レート	USドル	106円	110円	111円	1円 円高			
	ユーロ	126円	130円	130円				

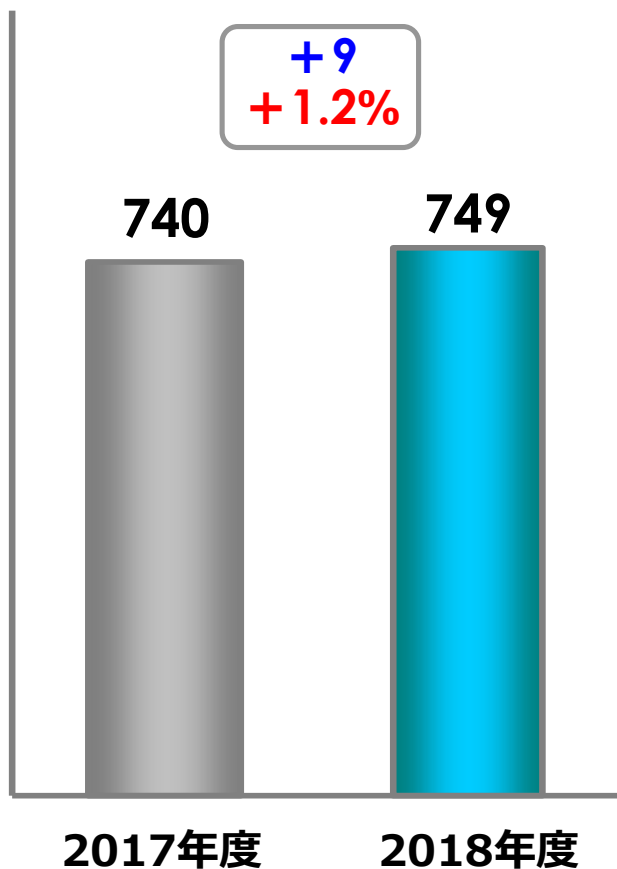
* 親会社株主に帰属する当期純利益

3-2) 2018年度 通期業績予想 地域別生産台数

シート生産台数

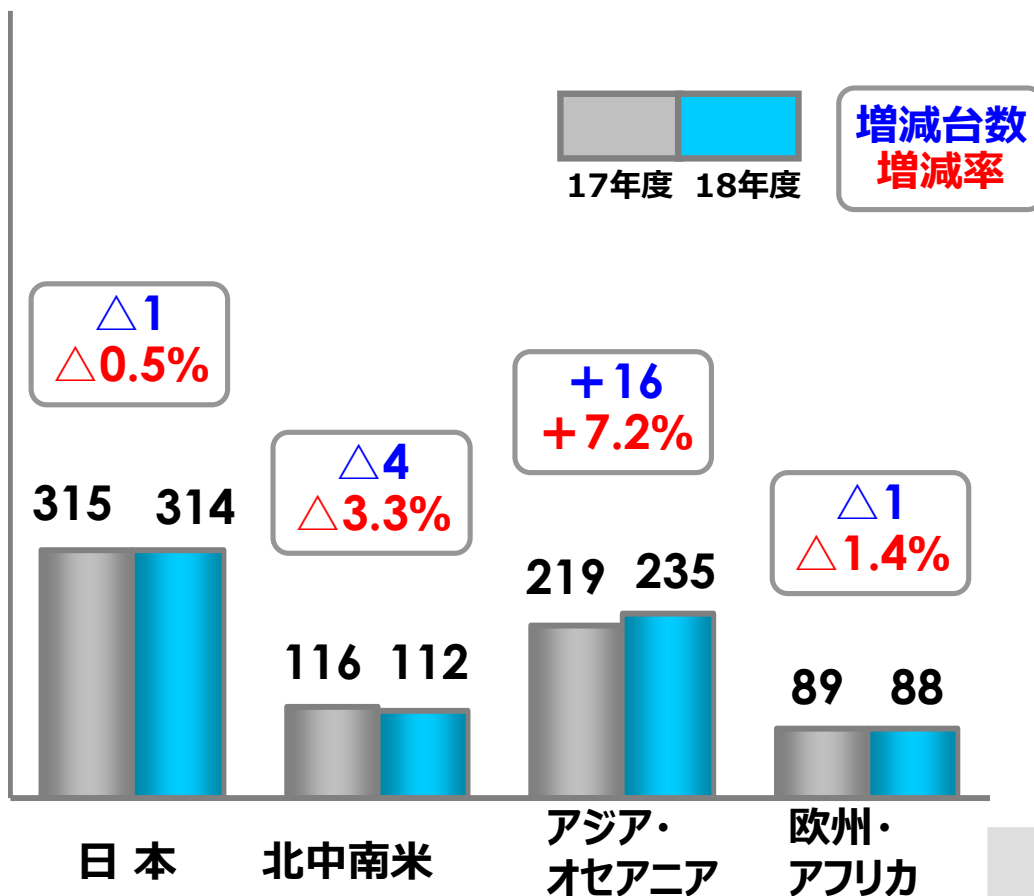
連結全体

(万台)



セグメント別

(万台)



3-3) 2018年度 通期業績予想 地域別売上高・営業利益

日本

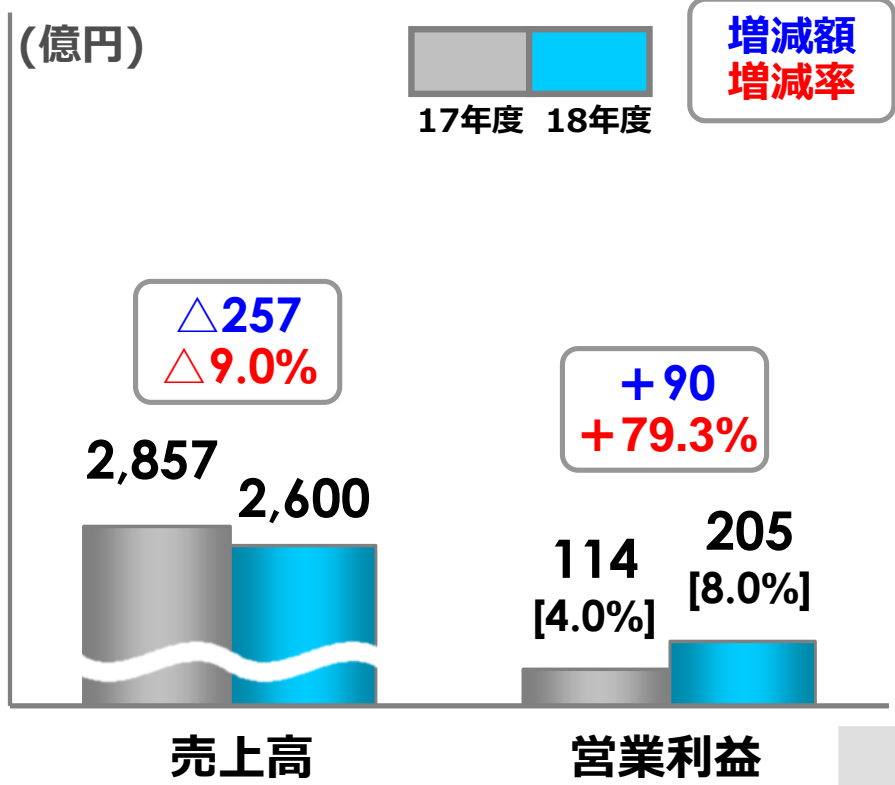
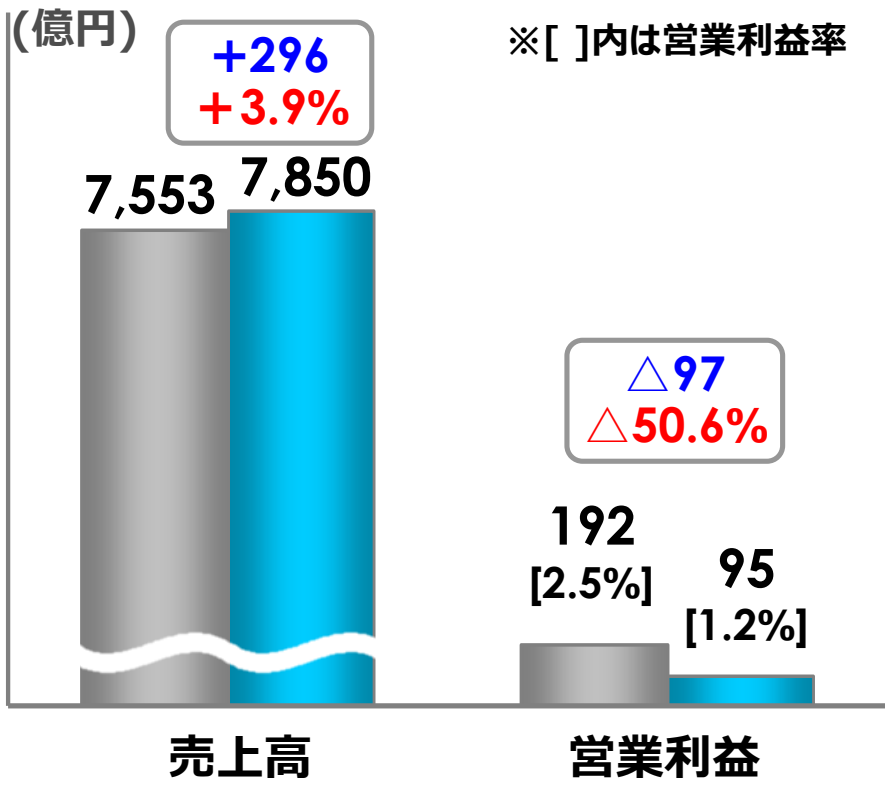
北中南米

減益要因 △97億円

増益要因 +90億円

- ・車種構成の変化による増収
- ・将来の成長に向けた先行投資に加え、移転価格税制調整金の影響により減益

- ・減産、南米での為替影響による減収
- ・新製品の生産準備費用の増加はあるが、移転価格税制調整金の影響により増益



3-4) 2018年度 通期業績予想 地域別売上高・営業利益

アジア・オセアニア

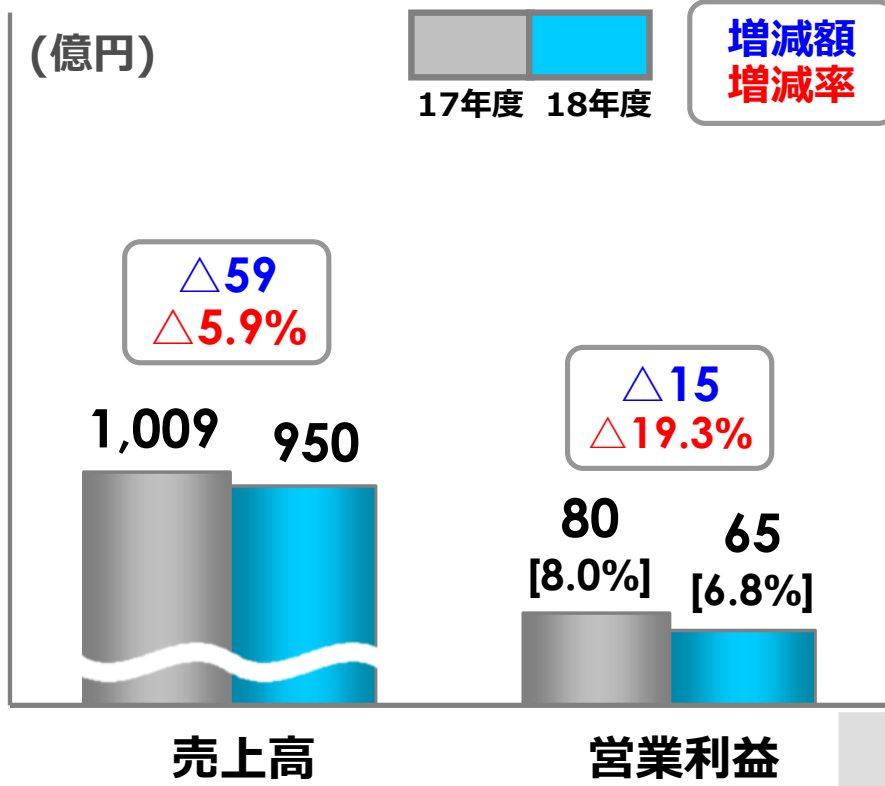
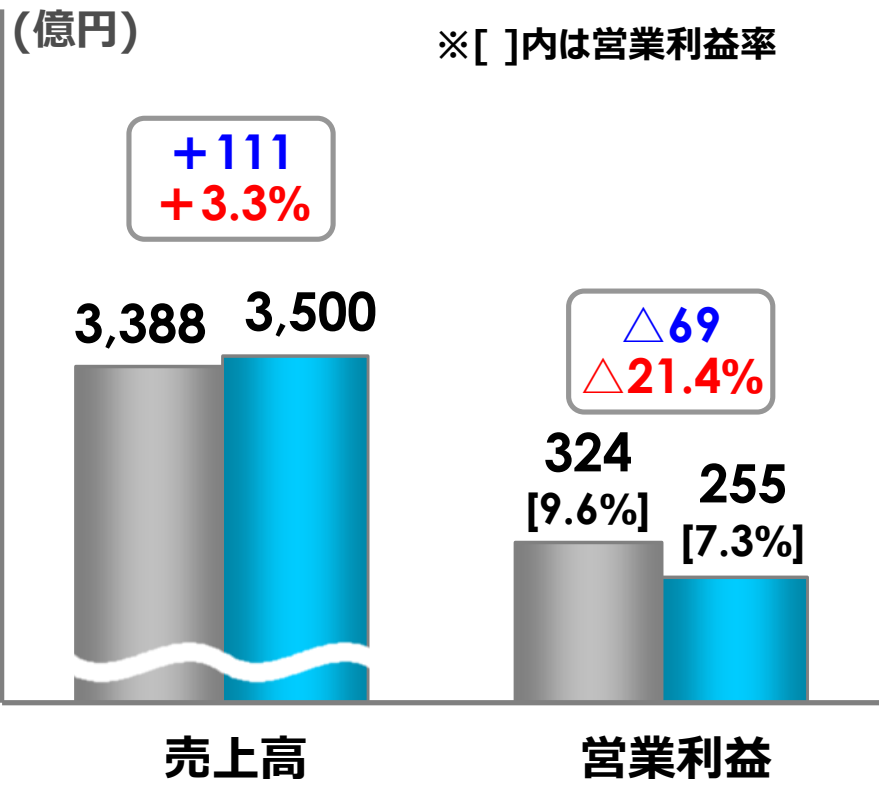
欧州・アフリカ

減益要因 △69億円

- ・中国での増産による増収
- ・増産に加え、新製品投入効果もあるが、移転価格税制調整金の影響により減益

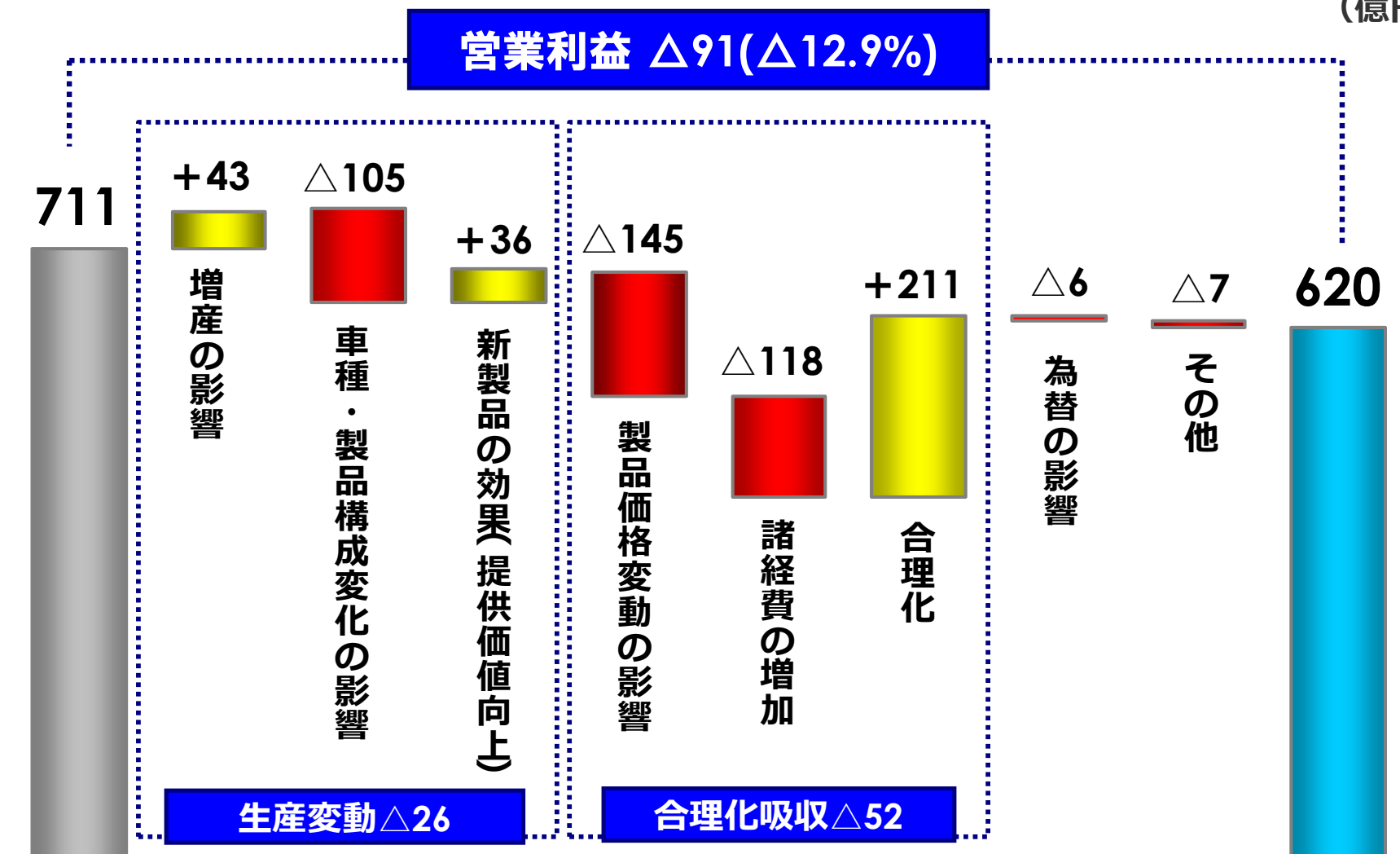
減益要因 △15億円

- ・前年度の一時的な収益の減少により減収減益



3-5) 2018年度 通期業績予想 営業利益増減要因

(億円)



2017年度実績

2018年度予想

3-6) 2018年度 通期業績予想 (上・下別)

売上高

※[]は前回公表値

(億円)

	18年度予想					
	上期(実績)		下期		通期	
日本	[3,800]	3,824	[4,000]	4,025	[7,800]	7,850
北中南米	[1,300]	1,353	[1,250]	1,246	[2,550]	2,600
アジア・オセアニア	[1,800]	1,759	[1,700]	1,740	[3,500]	3,500
欧州・アフリカ	[450]	471	[500]	478	[950]	950
連結全体	[6,950]	6,862	[7,050]	7,137	[14,000]	14,000

営業利益

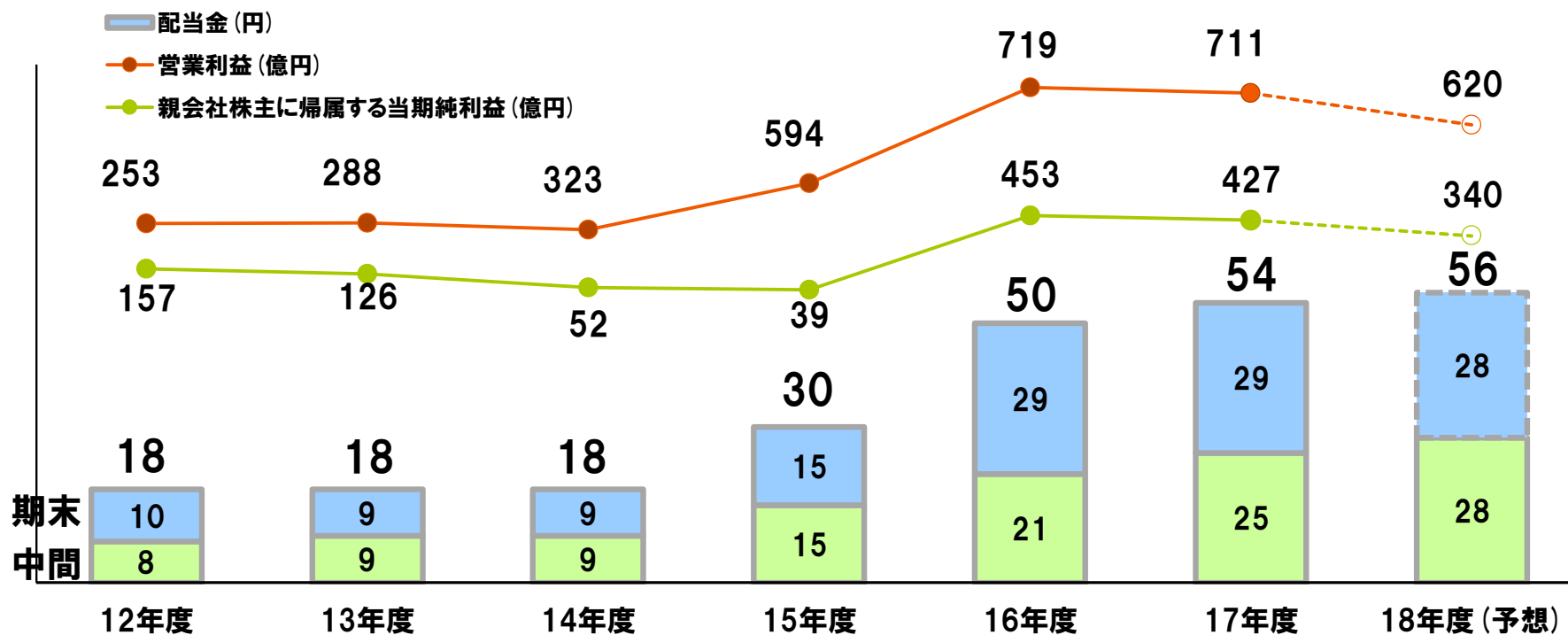
(億円)

	18年度予想								
	上期(実績)			下期			通期		
日本	[45]	8	0.2%	[85]	86	2.2%	[130]	95	1.2%
北中南米	[40]	165	12.2%	[20]	39	3.2%	[60]	205	7.9%
アジア・オセアニア	[180]	72	4.1%	[185]	182	10.5%	[365]	255	7.3%
欧州・アフリカ	[30]	33	7.0%	[35]	31	6.7%	[65]	65	6.8%
連結全体	[295]	278	4.1%	[325]	341	4.8%	[620]	620	4.4%

3-7) 2018年度 通期業績予想 株主還元

- ・18年度は、17年度より2円増配の56円を予定
- ・連結業績などを総合的に勘案し、長期安定的な配当を継続

配当金および営業利益、当期純利益の推移



決算状況

持続可能な成長を目指して

1. 2020年中期経営実行計画の進捗

1)概要

2)進捗状況

1. 2020年中期経営実行計画の進捗

1)概要

2)進捗状況

ビジョン

目指す企業像

明日の社会を見据え、世界中のお客様へ
感動を織りなす移動空間の未来を創造する

(1)事業におけるありたい姿

世界中のお客様に最高のモビリティライフを提案し続ける会社

(2)社会から見たありたい姿

すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社

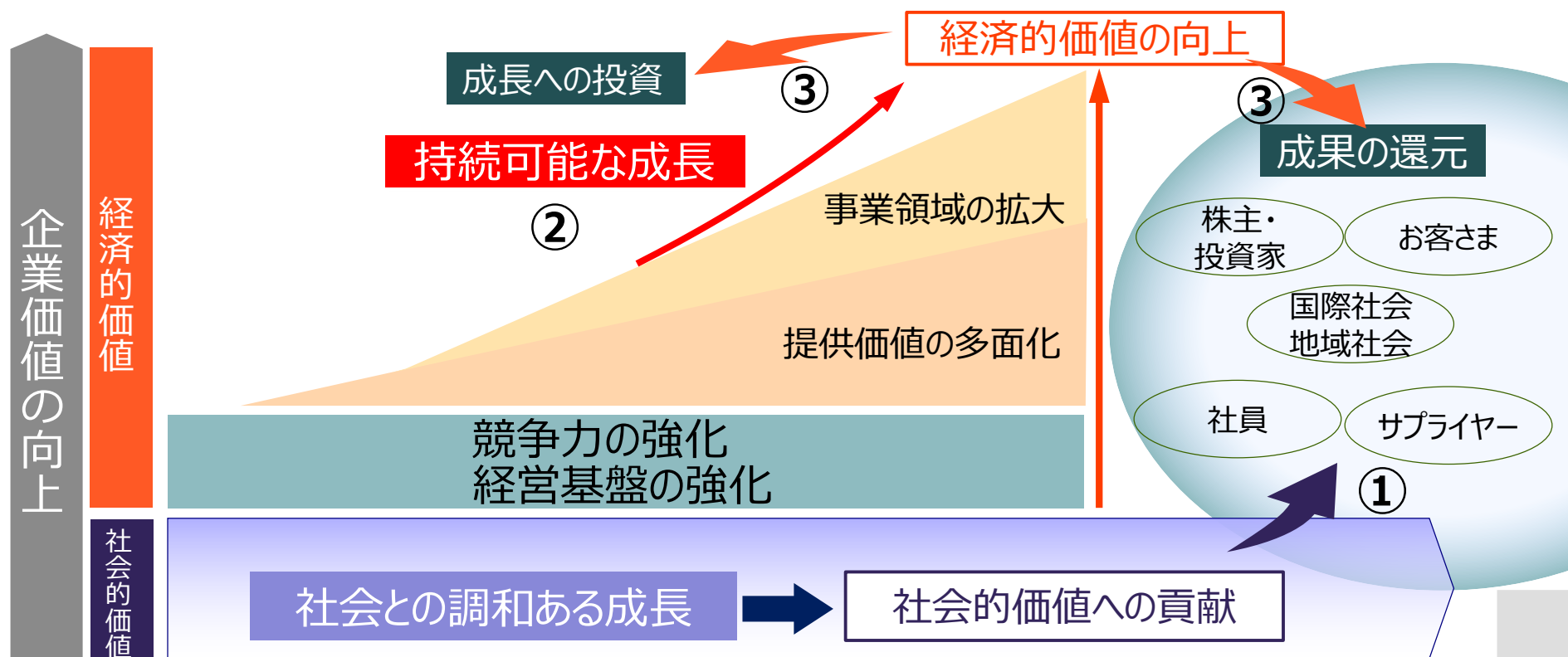
QUALITY OF TIME AND SPACE

全てのモビリティへ“上質な時空間”を提供

2020年中期経営実行計画の概要

経営の目指す姿

- ① 社会との調和ある成長の追求を通じて社会的価値への貢献を目指す
- ② 「競争力の強化」と「経営基盤の強化」を軸に持続可能な成長を追求し経済的企業価値の向上を実現
- ③ 経済的価値向上の成果をステークホルダーに還元するとともに、将来の成長に向け再投資することで、中長期的に企業価値向上を図る

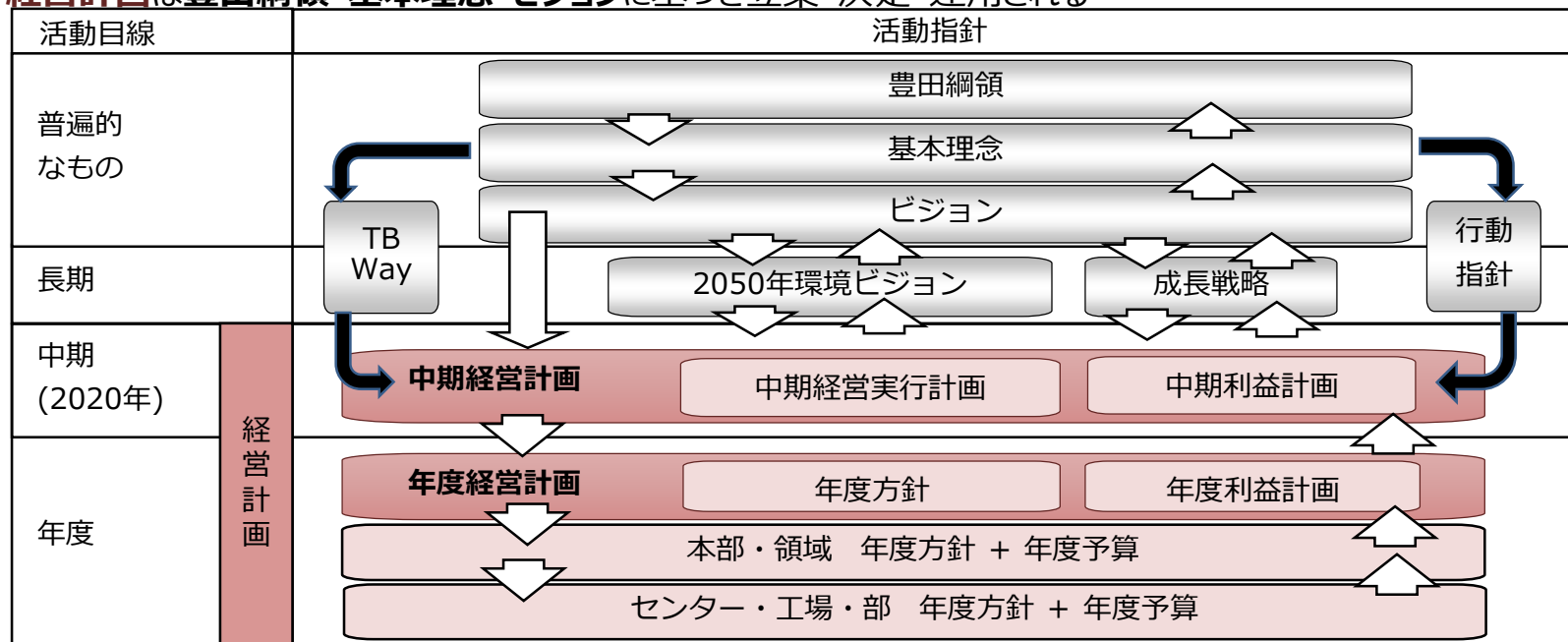


2020年中期経営実行計画の概要

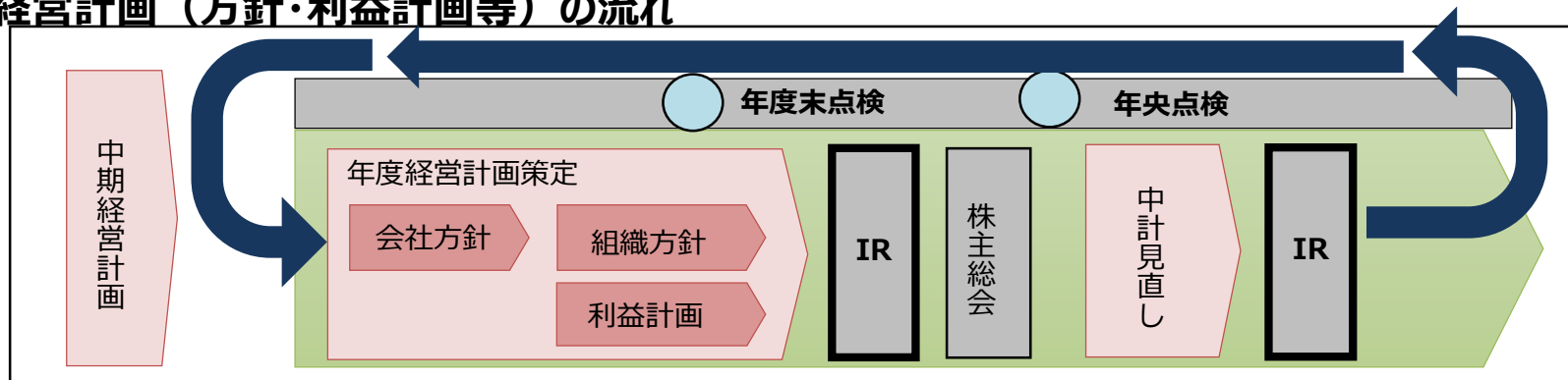
経営体系

1) 経営の体系図

経営計画は豊田綱領・基本理念・ビジョンに基づき立案・決定・運用される



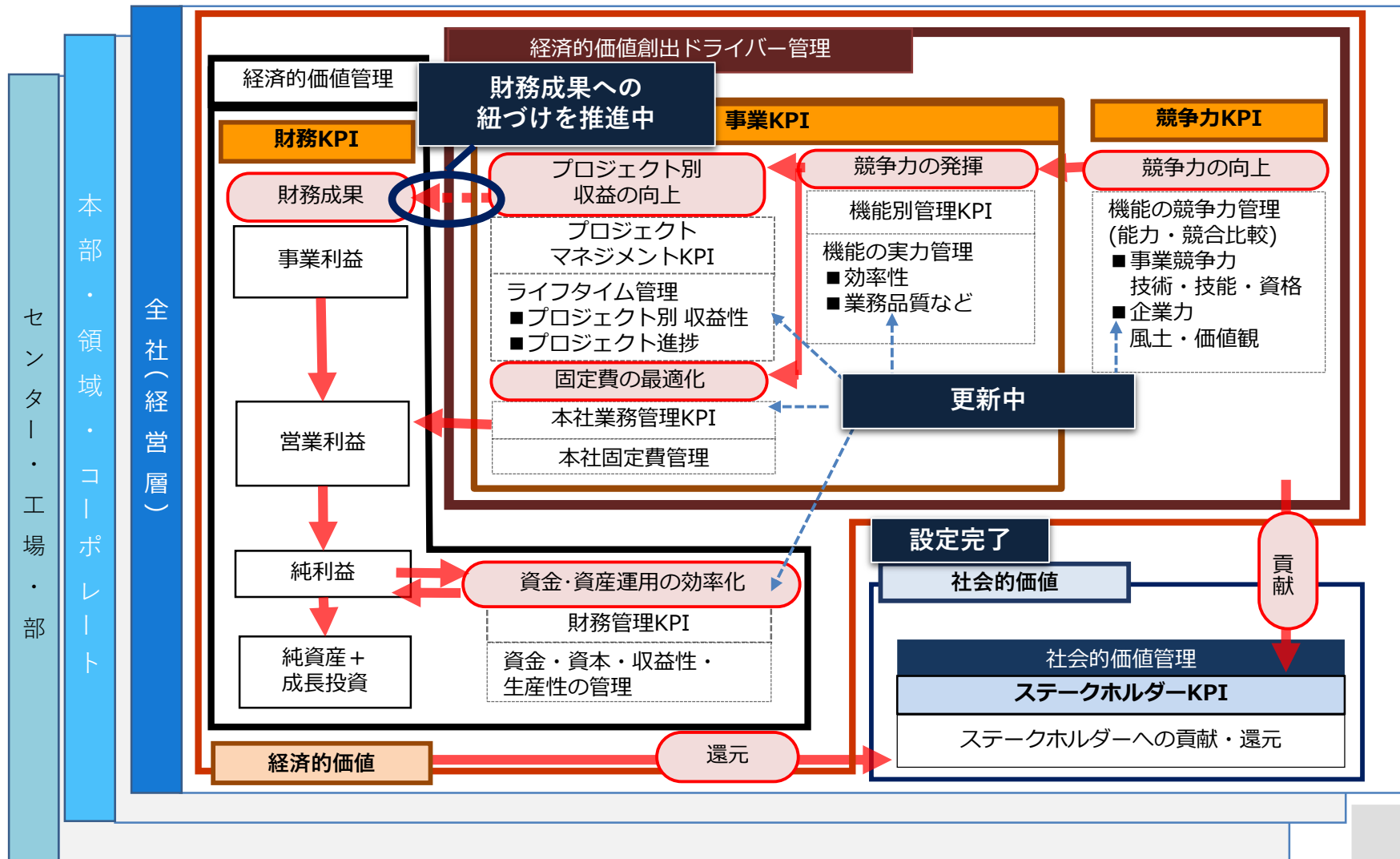
2) 経営計画（方針・利益計画等）の流れ



2020年中期経営実行計画の概要

経営管理体系の構築と具体化

経済的価値を創造するマネジメントプロセスを体系化



1. 2020年中期経営実行計画の進捗

1)概要

2)進捗状況

計画通りに進捗。経営のファンダメンタルズは着実に向上

1 競争力の強化

- 「2030年を見据えた新技術・新製品の開発」では、成長戦略の実現に向けたステップを明確にし、それぞれのステップでロードマップに沿った取り組みを進展
- 「2030年を見据えたモノづくりの革新」は、IoTの現場導入、工程革新開発など次世代ラインの構築を計画通り推進
- 「モノづくりの基本的能力の更なる向上」は、開発効率の向上や現場力強化による自立化が計画に沿って進展

2 経営基盤の強化

- 人材育成や情報基盤の改善に加えて、成長市場への対応力強化など、収益基盤の強化に向けた取り組みを加速

本日ご説明する項目

ありたい姿		主な取り組み
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献
	環境	
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発
		2030年を見据えたモノづくりの革新
		モノづくりの基本的能力の更なる向上
		開発力の強化 生技生産力の強化
	経営基盤の強化	システムサプライヤー体制の進化
		シート骨格事業統合の完遂
		新規顧客ビジネス事業基盤の確立
	日本事業体制の再構築	
	強靱な事業構造の構築	
	グローバルな経営基盤の整備	

快適 安全

環境

ありたい姿		主な取り組み	
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献	
	環境		
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	
		2030年を見据えたモノづくりの革新	
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	開発力の強化
	経営基盤の強化	収益構造の強化	
		システムサプライヤー体制の進化	
		シート骨格事業統合の完遂	
		新規顧客ビジネス事業基盤の確立	
		日本事業体制の再構築	
		強靱な事業構造の構築	
		グローバルな経営基盤の整備	

快適 安全

環境

2030年を見据えた新技術・新製品の開発

これまでの取り組みと目指す姿

2018年

2020年

2025年

2030年

市場環境の変化 CASEの伸展



成長戦略

人に寄り添う
おもてなし空間



<ステップ3> ■ 車室空間全体を取りまとめるシステムサプライヤーへ

- ・五感制御+空気質
- ・モノ+サービスを可能にする技術



常に見守り
移動が楽しくなる空間



運転から解放された変幻自在空間

<ステップ2> **先行開発の強化（グループ連携強化）**

- ・パーソナル空調・覚醒維持システム
- ・拘束安全装置のシート一体化

<ステップ1>

開発領域の拡大

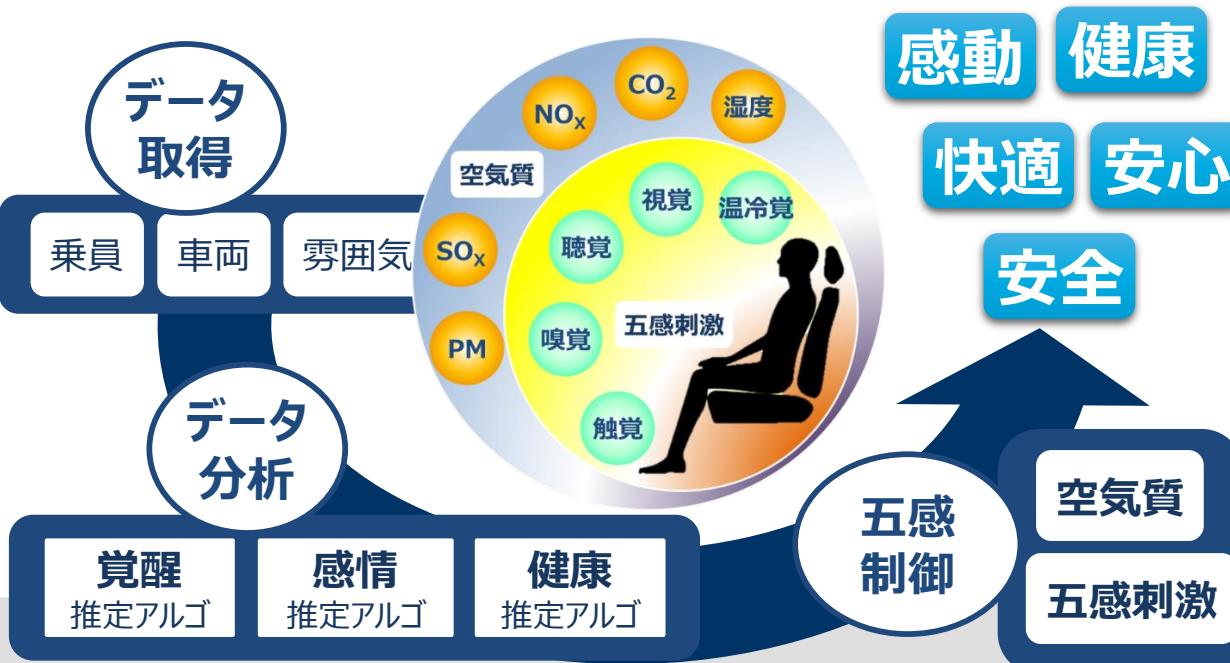
- 材料開発からアッセンブリーまで担うサプライヤーへ

足許課題の解消

- 開発力強化 ■ 生技生産力強化 ■ 人材育成 ■ マネジメント基盤の強化

五感 + 空気質の制御システム開発

提供価値の実現技術としてアクションプランに沿って開発推進中



パーソナル空調
覚醒維持システム

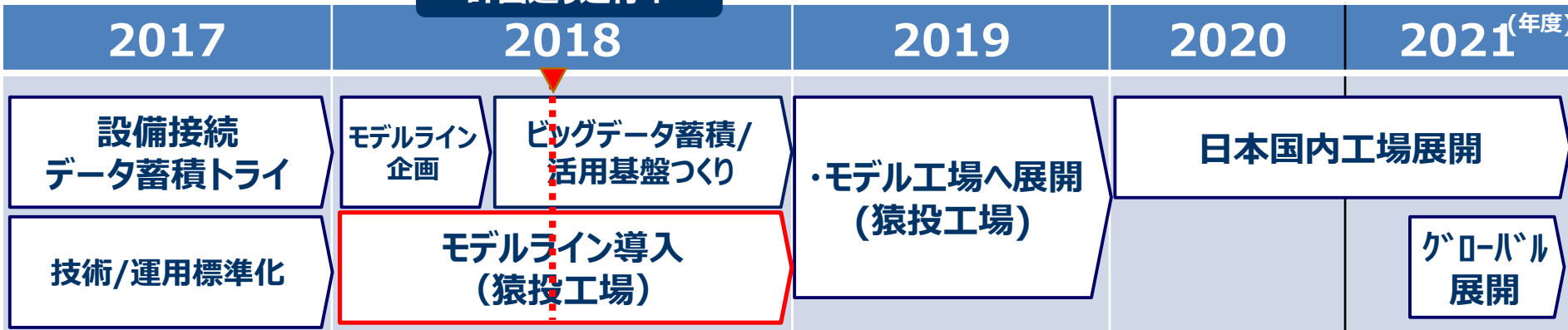


ありたい姿		主な取り組み	
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献	
	環境		
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	<div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px 5px;">快適</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px 5px;">安全</div> </div>
		2030年を見据えたモノづくりの革新	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px 5px; display: inline-block;">環境</div>
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px 5px; display: inline-block;">開発力の強化</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px 5px; display: inline-block;">生技生産力の強化</div>
	経営基盤の強化	収益構造の強化	システムサプライヤー体制の進化
			シート骨格事業統合の完遂
			新規顧客ビジネス事業基盤の確立
日本事業体制の再構築			
強靱な事業構造の構築			
グローバルな経営基盤の整備			

2030年を見据えたモノづくりの革新

将来予測を踏まえ、繋がる工場（IoT）の具現化を推進

計画通り進行中



取組み ライン稼動リアルタイム見える化、データ解析



シート組立、ドア組立 モデルラインで導入開始

導入効果

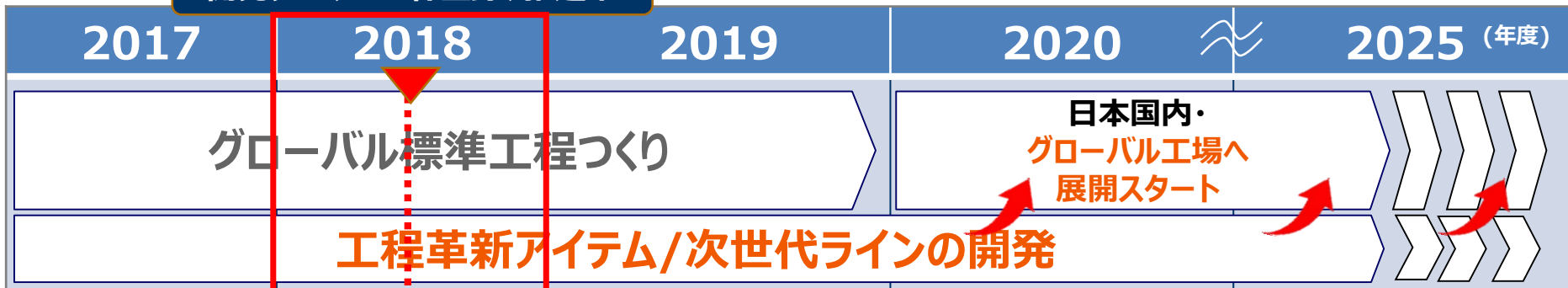
兆候管理による、設備トラブル/品質不具合発生の未然防止 など



2030年を見据えたモノづくりの革新

ものづくり競争力確保のための、次世代ラインの構築を推進

開発テーマ175件登録、推進中



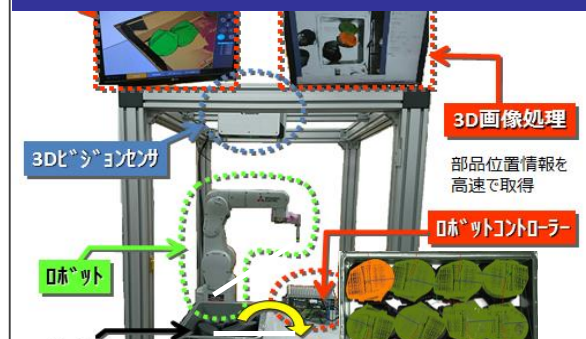
取組み 工程革新の取り組み事例

- 【目的】
- ・工程革新による標準ラインの進化と横展開
 - ・自動化技術開発による低コスト化

AI自働外観検査



部品自動ピッキング



生産設備CO₂削減アイテム開発



2019年～順次導入開始

導入効果 (例) シート組立工程省人化 : ▲50% (2023年)

2030年を見据えたモノづくりの革新

ものづくり革新センターの新設

完成予定：2019年11月

将来に向けた工程革新の加速

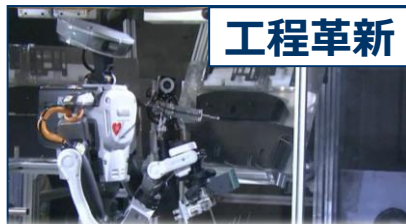
革新アイテム開発と標準ラインの進化、グローバル展開

機能・事業横断で開発体制整備

開発、生技、品質、製造 一体でのものづくり進化

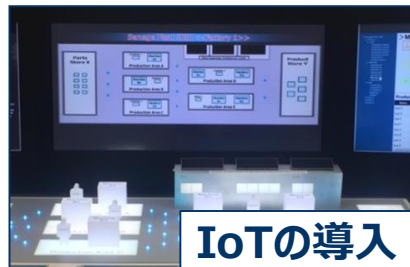
情報センター機能の強化

情報の一元化によるグローバルガバナンスの強化



工程革新

2025年 目指す姿



IoTの導入



イメージ

情報センター

お客様とつながる



B to C

工程革新



匠+自動化

2030年 目指す姿

地域社会と共生



社会貢献

つながる工場

工場とつながる




生産モニタリング

地球と共生



ありたい姿		主な取り組み		
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献		
	環境			
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	快適 安全 環境	
		2030年を見据えたモノづくりの革新		
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	開発力の強化 生技生産力の強化	
	経営基盤の強化	収益構造の強化	システムサプライヤー体制の進化	
			シート骨格事業統合の完遂	
新規顧客ビジネス事業基盤の確立				
		日本事業体制の再構築		
		強靱な事業構造の構築		
		グローバルな営基盤の整備		

開発効率の着実な向上で蓄積した力を活用し、 様々なジャンルの高品質シート・内装の提供開始

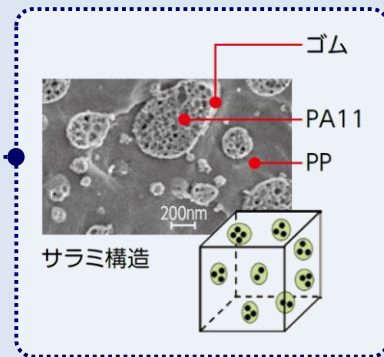
2018	2019	2020	2021	2022～ (年度)
 <p>★ 開発効率 15%向上 (達成) (2015年度比)</p>	<p>★ 品質・効率の向上 同目標 30%向上</p>		<p>★ スピードの向上 開発リードタイム 半減</p>	

● **新型センチュリー** (世界最高峰の座り心地・疲れにくい乗り心地を実現したリアシート)

● **新型クラウン** { (姿勢変化が少なく長時間走行でも疲れにくいフロント & リアシート)
(独自 “高耐衝撃プラスチック” 採用の軽量発泡ドアトリム)

● **カローラスポーツ** (高いホールド性と安定した運転姿勢のTNGAフロントシート)

● **電動化・少量生産車対応 開発体制の構築**



試作評価に頼らない、高速な製品開発の実現

- トヨタ紡織版 MBDの取組み (Model Based Development)
- 技術者の育成と開発手法の完全修得

品質・生産性向上に向けた標準化ラインの着実な構築



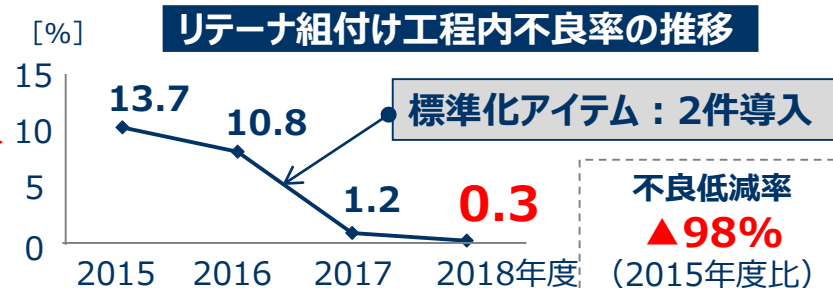
■ 取組み進度 (標準合致率)

	シート					内装				FPT
	プレス	溶接	組立	ウレタン	加圧	INJ	接着	組立	熱可塑	FPT
日本	98%	92%	90%	79%	99%	82%	73%	74%	90%	95%
米州	97%	96%	90%	94%	97%	72%	70%	65%	94%	93%
中国	96%	97%	82%	86%	89%	78%	87%	82%	94%	56%
アセア	97%	91%	63%	77%	92%	91%	75%	62%	82%	81%
欧州	84%	94%	65%	77%	90%	90%	73%	64%	50%	64%

標準化率: 77% ⇒ **83%** (2017年 ⇒ 2018年)

■ 取り組み効果 (例: 工程内不良率)

事例1) ドア組立モデルライン (猿投工場)



事例2) シートトラック組付工程



現場力強化による工場の自立化を推進



自立度評価基準

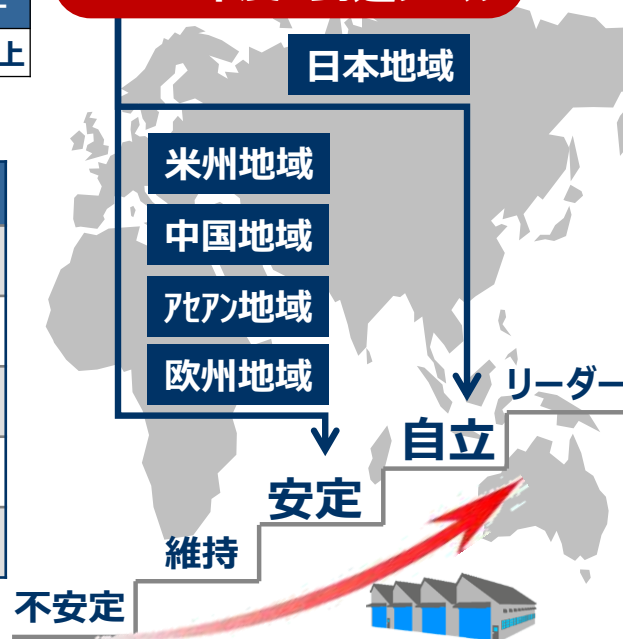
不安定	維持	安定	自立	リーダー
0.8以下	0.8以上	1.6以上	2.4以上	3.2以上

■ 地域別の自立度評価進捗

	2016年度	2017年度
日本地域	2.3 ⇒ 2.9	
米州地域	1.3 ⇒ 1.6	
アミア地域	1.8 ⇒ 2.0	
中国地域	—	2.2
欧州地域	—	2.2

※地域別平均値

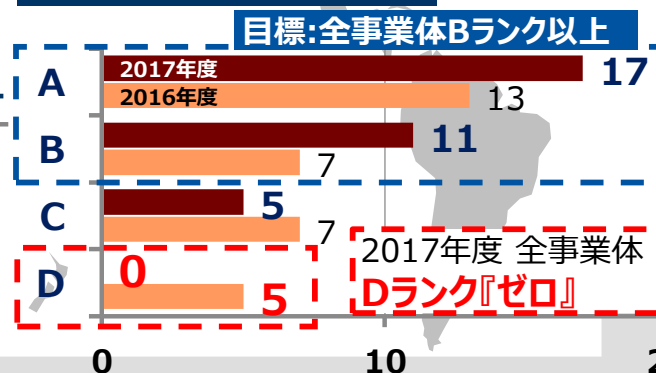
2017年度 到達レベル



■ 顧客によるグローバル品質評価

良	総合評価	定義
↑	A	目標達成、模範となる仕入先
	B	目標達成
	C	目標未達
↓	D	目標大幅未達
悪		

評価ランク毎の事業体数



ありたい姿		主な取り組み		
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献		
	環境			
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	<div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">快適</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">安全</div> </div>	
		2030年を見据えたモノづくりの革新	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">環境</div>	
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">開発力の強化</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">生技生産力の強化</div>	
	経営基盤の強化	収益構造の強化	システムサプライヤー体制の進化	
			シート骨格事業統合の完遂	
			新規顧客ビジネス事業基盤の確立	
		日本事業体制の再構築		
		強靱な事業構造の構築		
		グローバルな経営基盤の整備		

収益構造の強化 (シート骨格事業集約の完遂)

骨格事業集約(2015年にアイシン精機・シロキ工業から事業譲渡)

狙い

- ①骨格機構部品の開発・生産を含む一貫体制を構築
- ②専門メーカーとしての開発力や開発スピードの向上
⇒競争力を強化することで世界No.1のシートメーカーを目指す

開発:①②の実現

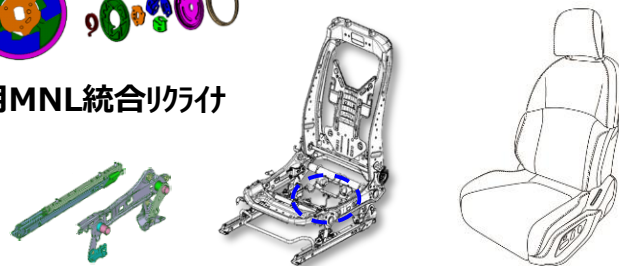
- 3社のノウハウを結集した高い競争力の
新製品を開発 ⇒市場投入を計画



Fr/Rr共用MNL統合リクライ

生産:①の実現

- 部品組立からシート組立までの一貫生産
- ミニмум投資で競争力のある組立ラインで内製化を実現

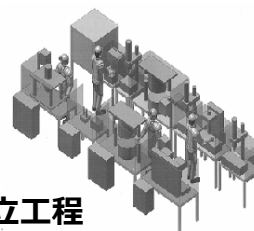


シートトラック/ロアーム ⇒ フレーム組立 ⇒ シート組立

調達:①の実現

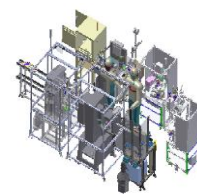
- 機構部品の商流をスリム化し、調達価格の低減を推進 (6品目/全163品番)

モーターwithギア
パワーリクライニング



従来組立工程

・コンパクト化
・省スペース技術
・自動化

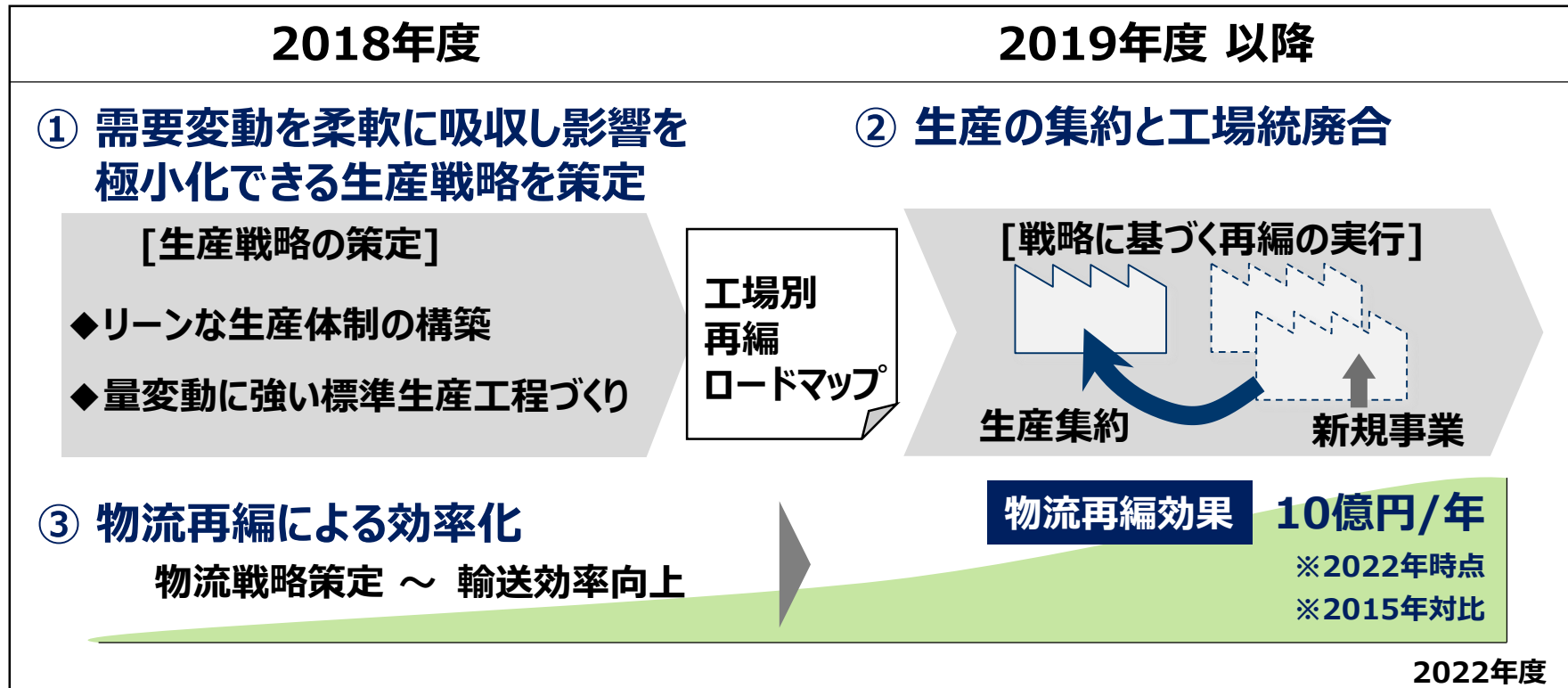


新規組立工程

ありたい姿		主な取り組み		
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献		
	環境			
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	快適 安全 環境	
		2030年を見据えたモノづくりの革新		
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	開発力の強化 生技生産力の強化	
	経営基盤の強化		システムサプライヤー体制の進化	
		収益構造の強化	シート骨格事業統合の完遂	
			新規顧客ビジネス事業基盤の確立	
			日本事業体制の再構築	
	強靱な事業構造の構築			
	グローバルな経営基盤の整備			

収益構造の強化（日本事業体制の再構築）

1) 生産体制の再構築



2) 生産戦略のグローバル展開

	2018	2019	2020	2021(年度)
[次世代生産ライン化]		モデル工場展開	日本国内展開	グローバル展開
[生産再編]	戦略策定	生産集約と統廃合		

ありたい姿		主な取り組み		
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献		
	環境			
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	快適 安全	
		2030年を見据えたモノづくりの革新	環境	
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	開発力の強化	
	経営基盤の強化	収益構造の強化	システムサプライヤー体制の進化	生技生産力の強化
			シート骨格事業統合の完遂	
			新規顧客ビジネス事業基盤の確立	
		日本事業体制の再構築		
		強靱な事業構造の構築		
		グローバルな経営基盤の整備		

成長市場への積極的な対応

- 客先ニーズ対応の迅速化(営業・R&D)
- 将来を見据えた、工場の生産能力増強

中国

天津・広州に分公司を設立、運用開始(2018年7月)

R&D

生産技術

品質保証

天津豊田紡の新工場設立(2018年10月)

北部のユニット部品事業の拡販拠点化

生産能力 +30%

樹脂部品の内製化、運搬・物流ロス低減によるコスト競争力向上

インド

拡販戦略立案

R&Dおよび営業機能の事務所設立予定

シート・デバイス・内装・ユニット部品の提案活動

新規顧客ビジネス獲得に向け営業・提案活動を強化

大阪営業所を移転・拡充

新たな営業拠点設立を計画

ありたい姿		主な取り組み		
社会との調和ある成長	CSR	各ステークホルダーのみなさまの期待に応える活動を通じた社会的価値向上への貢献		
	環境			
持続可能な成長	競争力の強化	2030年を見据えた新技術・新製品の開発	快適 安全 環境	
		2030年を見据えたモノづくりの革新		
		モノづくりの基本的能力の更なる向上	開発力の強化 生技生産力の強化	
	経営基盤の強化	収益構造の強化	システムサプライヤー体制の進化	
			シート骨格事業統合の完遂	
			新規顧客ビジネス事業基盤の確立	
	日本事業体制の再構築			
	強靱な事業構造の構築			
	グローバルな経営基盤の整備			

グローバル本社機能の強化

完成予定：2020年5月

経営管理高度化

コーポレート機能の集約

地域・製品事業・社外の連携強化

オフィススペース刷新・コラボレーションエリア新設

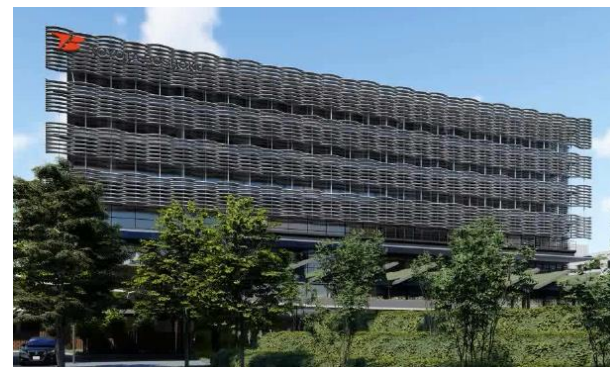
経営情報基盤の整備

情報の一元化によるグローバルガバナンスの強化

地域社会との共生

社員満足度向上

- ・ トヨタ紡織の伝統を伝える歴史展示館
- ・ ステークホルダーとの対話活性化
- ・ 創造性の発揮と、人材の育成につながる開放的なオフィスの実現
- ・ 地域貢献(防災拠点) ・ 環境への配慮



コラボレーションエリア

社会に役立つ技術を世に発信

ダイバーシティとオープンディスカッション

社外有識者と新価値を議論:テクニカルアドバイザリーボード設置



分野を越えた自由闊達な議論

ボードメンバー

竹内昌治 教授 (生産技術研究所/東京大学)

伊丹健一郎 教授

(トランスフォーマティブ生命分子研究所/名古屋大学)

阿形清和 教授 (理学部/学習院大学)

大谷吉生 教授 (金沢大学 ※包括連携) ほか



産学連携による知識・技術の深化

世界初



植物栽培への起潮力※活用開発をプレスリリース

ビジョン実現のための価値創造プロセス

ビジョン

価値創造を支える資源 *1

事業活動

成果 *1

健全な財務基盤

- ・連結純資産 3,086億円
- ・自己資本比率 35.3%
- ・格付JCR AA安定的

グローバルで多様な人材

サプライヤーとの協働

モノづくりの基盤

- ・設備投資額 520億円

研究開発の基盤

- ・研究開発費 473億円

グローバルな業務提携

B to B to Cの意識で
ビジネスを展開

シート事業



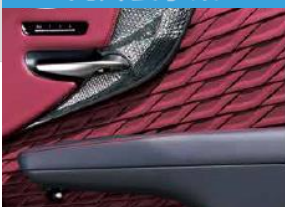
3つの強み

技術
開発

人
づくり

モノ
づくり

内外装事業



ユニット部品事業



資本効率向上

- ・ROE 17.3%
- ・連結売上高 13,995億円
- ・営業利益率 5.1%

ステークホルダー還元

- ・配当性向 23.5%
- ・法人税等 223億円

社員の働きがい、成長

お客様への価値提供

新技術の開発

新事業推進

経営管理体系

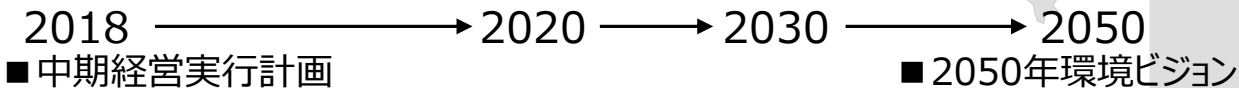
コーポレート
ガバナンス

CSR
マネジメント

ESG
SDGs

豊田綱領
基本理念
行動指針
TB Way

*1 2017年度末
時点の実績数値





<注意事項>

本資料に記載されている将来に関する業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想値であり、不確実性やリスクを含んでおります。

そのため 実際の結果は様々な要因によって業績予想と異なる可能性があります。